

Sublineages of Mycobacterium tuberculosis Beijing genotype strains and unfavorable outcomes of anti-tuberculosis treatment

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Hang, Nguyen Thi Le メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31333

主論文の要旨

Sublineages of *Mycobacterium tuberculosis* Beijing genotype strains and unfavorable outcomes of anti-tuberculosis treatment (結核菌北京型株の亜系統と抗結核薬による治療失敗、再発との関連)

東京女子医科大学国際環境・熱帯医学教室
(主任：遠藤弘良教授)

Nguyen Thi Le Hang

Tuberculosis doi:10.1016/j.tube.2015.02.040 (平成 27 年 2 月 13 日発行)
online 版に掲載

【要 旨】

結核菌の系統／亜系統と抗結核薬による治療失敗、再発との関連性については十分に検討されていない。我々は、東アジア系統の結核菌の代表で、現在、世界的な広がりを見せる北京型株の亜系統が、治療失敗、再発にどのような影響を及ぼすかについての前向き研究を行った。ベトナム、ハノイ市において、新規喀痰塗抹／培養陽性の活動性結核と診断され、研究参加同意の得られた患者に抗結核薬による標準治療を行い、治療失敗の有無を記録し、治療終了後、16 か月の経過観察を行い、再発の有無を確認した。治療前に培養分離株を保存し、その後、薬剤感受性検査と遺伝型別解析を実施した。北京型株は新興型(modern type)と祖先型(ancient type)のふたつの亜系統に分類した。

430 名のうち、17 名に治療失敗、30 名に再発を認めた。治療失敗には、リファンピシン耐性が関連していた(修正オッズ比 6.64 [95%信頼区間 1.48-29.73])。一方、再発には、北京型の亜系統である新興型の株が、薬剤耐性率によらず、関連していた(修正ハザード比 3.29 [95%信頼区間 1.17-9.27])。胸部 X 線写真上の陰影の広がりなどは明らかな関連を示さなかった。社会、経済的要因、宿主側の免疫的脆弱性以外に、病原体の亜系統についても注意を払い、結核の再発率を低下させるための対策に役立てることが重要と思われた。